

科目名	建築概論				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	牧田 和久				
内容および計画	<p>建築学はその領域が膨大にあるがゆえに「壮大な雑学」とも称されるが、その目的は社会に対して優れた建築物をつくりだすとともに私たちの生を支える環境づくりを進めることといえる。そこで、私たちが生活する道具としての建築をどのように受け止め、その空間をどのように構築していくかを初歩的な部分から考える。建築の存立条件として、気候風土・生活様式・ライフステージ・生産システム・社会的環境等々、様々な周辺要素との関わりを配慮することは当然のこととして、それを具体的に表現するための前提条件を理解する必要がある。本講義においては、基本的な建築技術用語を学習すると同時に、建築物がこれまでに培ってきた共生要素を題材として「建築とは」を考える。なお、建築技術用語に関する課題を毎回提示する。</p>				
1	「建築とは」を考える				
2	建築を構成する要素（建築をめぐる諸要素の発見）				
3	日本建築の空間史：建築と集落の黎明（竪穴建物・掘立柱建物の出現と変遷など）				
4	日本建築の空間史：信仰と建築（神社建築の発生、本殿形式の展開、空間の発達など）				
5	日本建築の空間史：仏教と建築（寺院建築の伽藍構成と特徴、仏堂の変遷と特徴など）				
6	日本建築の空間史：都市の歴史（古代・中世・戦国・近世の都市の構成要素と建築物）				
7	日本建築の空間史：支配者層と庶民の住宅（平安宮内裏、寝殿造、書院造、数寄屋、民家、町家などの空間的特徴）				
8	建築と形態（建築物の形態と空間的特徴）				
9	建築とルール（最低基準としての建築基準法の目的）				
10	建築と数学（建築計画、法規、構造力学、環境などに使われる数学とは）				
11	建築と構造（建築の存立要素と構造体の関係性）				
12	建築と設備（建築計画と設備との関係性）				
13	建築と環境（建築物の存立条件に影響を与える環境）				
14	建築と社会（建築物との関わりを振り返る）				
15	総括				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
なし（適宜資料を配布する）					
参考書	<p>1) 小平恵一 『世界で一番やさしい建築入門』 増補改訂カラー版 エクスナレッジムック 2) 藤田勝也、古賀秀策 『日本建築史』 昭和堂 3) 平尾和洋、末包伸吾 『テキスト建築意匠』 学芸出版社 4) 瀬川康秀、大野隆司 『世界で一番楽しい 建物できるまで図鑑 木造住宅』 エクスナレッジ 5) ソフトユニオン 『世界で一番やさしいエコ住宅』 改訂版 エクスナレッジムック</p>				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	課題・レポート・プレゼンテーション等				70
	授業態度				15
	出席状況				15

学習到達目標	建築の多様性と基礎的知識を理解するとともに、建築が果たす役割について考える力を涵養する。
先修条件	なし
実務経験	実務経験あり：住宅・建材・住宅機器メーカーの研究開発部に6年間勤務し、商品企画・設計・開発業務に従事してきた。これらの業務経験から、インテリアデザイン、建築デザインの基礎・応用等に係る事項について概説する。
その他	必須・選択の別:選択